



正しい道標みちしるべのもとに

われわれは聖書の研究に知能の全力を注ぎ、人間として及ぶかぎり、神の深い事柄を悟るために理解力を働かせねばならない。しかし幼な子のような従順と服従が、学ぶ者の真の精神であることを忘れてはならない。聖書の難解なところは、哲学上の問題を把握するのに用いるのと同じ方法では決して解決されない。多くの人が科学の領域に入る時に抱いているような、自分を頼みとする心をもって聖書の研究にたずさわるべきではなく、祈りのうちに神により頼む思いと、みこころを知りたいというまじめな願いをもってなすべきである。「わたしは有る」という偉大なお方から知識を得るために、謙遜ですなおな精神をもってみもとに行かねばならない。そうでないと、悪天使たちはわれわれが真理から感銘を受けないように、われわれの頭をくもらせ、心をかたくなにする。

聖書の中で、学者たちが不可解であると断言し、また重要でないものとして見のがしている多くの部分は、キリストの学校で教えられた者にとっては慰めと教訓に満ちている。多くの神学者が神のみ言葉について明快な理解を持っていない1つの理由は、彼らが自分の実行したくない真理に対しては目を閉じてしまうからである。聖書の真理に対する理解は、研究に払われる知力によるよりは、むしろ誠実な意図と、義を熱心に追い求める心にかかっているのである。
(ただ1つの防壁－聖書 各時代の大争闘 第37章)

➤箴言 4:23

何を守るよりも、**自分の心を守れ** Keep thy heart with all diligence. そこに命の源がある。

➤マタイの福音書 16:26

人は、(物質的な成功や世の価値観にとらわれて)

たとえ全世界を手に入れても、**自分の命(魂)**を失ったら、**何の得があろうか。**

自分の命を買い戻すのに、どんな代価を支払えようか。



聖書にある自然【ラピスラズリ (lapis lazuli)】



真珠の耳飾りの少女

Girl with a Pearl Earring

ヨハネス・フェルメール

高価なラピスラズリを使って描かれた。

完成：1665年

オランダのデン・ハーグのマウリッツハイス美術館所蔵

和名は瑠璃(るり)。トルコ石と共に9・12月の誕生石。石を意味するラテン語「lapis」と、青を意味する「azul」の造語。

深い青色から藍色の宝石で、しばしば黄鉄鉱(成分：鉄と硫黄、FeS₂)の粒を含んで夜空の様な輝きを放つ。

人類に認知され、利用された鉱物として最古のものとされている。

ラピスラズリ(聖書：ラピス・ラズリ)を原料とした青色顔料に天然ウルトラマリン(「海を越える」という意味)がある。

古代ローマの博物学者ガイウス・プリニウス・セクンドゥスはラピスラズリを「星のきらめく天空の破片」と表現した。石言葉は「尊厳・崇高」等。口語訳では、「しまめのう」と記されている。

※lazuli(ラズリ)：トルキスタン(テュルク系民族が居住する中央アジアの地域)にあるペルシア語地名

※azul(アジュール)：トルキスタンにある地名だったが、その地で産出するラピスラズリを意味するようになり、更に、明るく鮮やかな青を表す色名になった。

創世記 2:12 その金は良質であり、そこではまた、琥珀の類やラピス・ラズリも産出した。

口語訳：その地の金は良く、またそこはブドラクと、しまめのうとを産した。



●SYUN-KA KIKOU 旬花紀行は、三田キリスト教会のホームページでも公開されています。

●発行責任者：三田キリスト教会所属 谷口 一(兵庫県花緑いっぱい運動推進員、防災士)

